

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.171

「訪問販売お断りステッカー」配布しています

「訪問販売などをうまく断りたい」という方はいませんか。そのような方は兵庫県・兵庫県警察本部・兵庫県弁護士会制作の「訪問販売お断りステッカー」を玄関先に貼しましょう。このステッカーを無視して訪問販売を行うことは、兵庫県消費生活条例に違反することになります。



■より確実に訪問販売を防ぐために

セールスの訪問があったときは次のように対応しましょう。

- ①戸を開けず「どなたですか。何の御用ですか」と聞きましょう。
- ②「ステッカーを貼っています。お帰りください」と伝えましょう。
- ③景品の受け渡しや給湯器などの点検だと言い、目的を隠す業者もいるので注意しましょう。
- ④後からセールスだと分かったときは「いません。帰ってください」とはっきり伝えましょう。

以上のように対応してもすぐに帰ってくれないときは、警察に通報するか、消費生活センターに相談してください。

※ステッカーは市役所1階防災安全課窓口で配布しています。

あぐりコラム 9

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。

■問合せ 農林振興課(市役所内線322)



第101回兵庫県畜産共進会で黒田庄和牛が最優秀賞を受賞

黒田庄和牛が高い評価を受ける理由

黒田庄和牛は年間に約600頭が出荷され、近年ではその80%以上が日本一厳しいといわれる神戸ビーフの認定基準をクリアしています。また、養父市の但馬家畜市場で開催された「第101回兵庫県畜産共進会」では、黒田庄和牛が上位入賞するなどして高い評価を得ています。

その理由は、肥育農家の皆さんが毎日牛と触れ合い、表情や体つき、餌の食べ具合など1頭1頭の健康管理に注意しているからです。また、山々に囲まれた美しい気候と風土の中、約2年間じっくり時間をかけて黒田庄和牛を育てているからです。

黒田庄和牛の醍醐味は、上品な甘みがあり、きめ細かな赤身が脂肪の風味や香りと溶け合って、食べたときに舌の上で絶妙に合わる点です。肉の霜降りとは、脂肪が筋肉の中に細かく入り込んだ状態のことですが、黒田庄和牛は、この脂肪(サシ)が人肌で溶けてしまうほど融点が高いのが特徴です。また、おいしさの決め手であるイノシン酸やオレイン酸が豊富に含まれており、豊かな味わいを楽しむことができます。肥育農家の皆さんが愛情を注いで育てた豊かな味を、ぜひご賞味ください。



開通前のイベントで道路に絵を描く親子連れら(11月4日)

11月16日には日野北バイパス(県道中安田市原線・市道市原羽安線)が開通しました。JR鍛冶屋線が平成2年に廃線になった当時から線路跡の道路化に対しては、地元の方から強い要望が出ていました。このたびの開通は、地域が待

今年も地元の方々とともに「国道175号西脇北バイパスの早期開通・黒田庄以北の早期事業化」を財務省・国土交通省などへ要望してきました。地元の高い思いを国に直接伝えようとする取り組みは今年で4回目となりました。

上戸田から上野までの国道427号も県事業として拡幅工事が進んでいます。新庁舎建設に合わせて周辺道路も県の方々と周辺住民の皆さまにもご協力をいただいております。道路が開通すると、人が行き交います。西脇市にたくさんの方に訪れていただき、まちが元気になることを期待しています。

若者が誇れる「元気なまち西脇市」を皆さんとともに創ってまいります。



西脇市長 片山象三

市長からの手紙

71

西脇を元気に!!



▲昨年片山市長を表敬訪問した幌村選手(左)と藤原選手(右)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

心紡いで 彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる 共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

オリンピックを一緒に盛り上げよう

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開幕まで約7カ月

56年ぶりに日本で世界最大のスポーツの祭典が行われます。皆さんは西脇市出身者にもオリンピック出場の可能性がある選手がいることを知っていますか。

西脇市初のオリンピック誕生に期待

東京オリンピックでは、西脇市出身の柔道男子81キロ級の藤原崇太郎選手(日本体育大学3年生)や競泳男子200メートルバタフライの幌村尚選手(早稲田大学3年生)に代表選出の期待がかかっています。

柔道は他の競技のように1度の選考会で代表を決定するのではなく、世界大会や国内大会での成績をポイント化して総合的に判断し、代表を選考します。藤原選手は昨年の世界選手権で第2位になるなど、世界大会では安定した結果を残しています。一方、競泳は今年7月の世界選手権で優勝した選手は、すでに代表入りが確定してい

ます。しかし、幌村選手が出場する男子200メートルバタフライは日本人の優勝者がいなかったため、来春に行われる代表選考会で上位2選手が選ばれる予定です。故障で調子を下げましたが、最終選考を前に調子が上がっているようです。

新たに期待が高まる選手

プロ野球ソフトバンクホークスの甲斐野央選手に注目が集まっています。甲斐野選手はプロ1年目でありながら、ソフトバンクホークスの日本一に貢献し、11月に開催された「2019WBS Cupプレミア12」で待ジャパンの一員に追加招集。その大会でも存在感を示したことから、オリンピック代表選出への期待が高まります。

皆さんも応援やボランティアなど、まだまだオリンピックに関われる機会はたくさんあります。来年のオリンピッククイヤーと一緒に盛り上げましょう。

▼問合せ 生涯学習課スポーツ振興室(総合市民センター内/☎22-5996)

心のスケッチ

129

人権教育課コラム

人権週間に寄せて

―ある作品を読んで―

日本には「文学賞」と呼ばれる賞がいくつあるかご存じですか。「直木賞」「芥川賞」といった有名なものから、聞き覚えのないものまで、およそ200賞ほどあるといわれています。

その中の一つに「部落解放文学賞」というものがあり、「識字」「記録・表現」「小説」などの7部門に分かれています。今年7月に発表された第45回部落解放文学賞の「記録・表現部門」では、加東市の長谷川和正さんが「恩師・内藤幸雄先生の思い出」という作品で入選されました。近隣にお住いの方ということもあり、興味を持ってその作品を読みました。

長谷川さんは50年余り前、地元青年団の同和研修で、後に恩師となる内藤先生(小野市で長年教育に従事)から言われた「君、よく勉強してから後日、出会いましょう」という言葉に奮起し、部落問題の学習に仲間と共にのめり込んだそうです。この受賞作品では内藤先生を船頭役に、部落問題を中心とした人権学

習会「どんぐり」の25年にわたる活動の軌跡が作者の目線で丹念に描かれていました。「どんぐりの会」の仲間が受けた結婚差別や目の不自由な姉を通しての作者自身の差別体験、さらに、自らが企画した「おもろい同和研修」と銘打った地元自治会の人権学習会が巻き起こした波紋など、どれも事実に基づいた内容で読み手を引きつけるものでした。選者の批評では、「差別を考える姿勢を試行錯誤しながら形成する過程がよく描かれている」と高い評価を受けています。

今年も12月4日から10日までの一週間、「第71回人権週間」関連行事が全国一斉に行われます。これは、私たちの社会に不当な差別などの人権侵害が存在していることを意味しています。自分のそして周りの人の人権にどれほどの関心を示すのか、私たちは今、問われています。

(人権教育課) ※長谷川さんには、「黒田庄文化祭」でこの作品を基にした講演をしていただきます。

